

令和4年度

「下市町教育」の検証

下市町教育委員会の権限に属する事務の管理
及び執行状況の点検・評価の結果報告書

令和5年3月

下市町教育委員会

目 次

< はじめに >

I 点検・評価の概要

- 1 目的
- 2 対象
- 3 実施方法
- 4 審議等の経過

II 令和4年度教育委員会の活動状況

- 1 令和4年度定例教育委員会会議
- 2 教育委員の活動状況について

III 施策の点検・評価

- 1 教育委員の主な活動についての点検・評価
- 2 具体的な施策についての点検・評価
 - 取組項目
 - 評価シート
 - <下市こども園>
 - <下市小学校>
 - <下市中学校>
 - <社会教育分野>

IV 教育評価支援委員からの意見

- 1 教育委員会の活動状況について
- 2 施策の点検・評価について
 - ① こども園、小学校、中学校
 - ② 社会教育などの分野
- 3 その他、本年度の課題など

V 関連資料

- ・ 地方教育行政の組織及び運営に関する法律 <抜粋>
- ・ 下市町教育委員会点検・評価実施要領

< はじめに >

「第3期教育振興基本計画」（平成30年6月15日閣議決定）において「客観的な根拠を重視した教育政策の推進」が盛り込まれ、地方公共団体は、実情に応じ教育の振興のための施策に関する基本的な計画を定めるように努める必要があります。

この報告書は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（昭和31年法律第162号）第26条第1項の規定に基づき、令和4年度における教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検評価を行った点検・評価の結果をまとめたものです。

下市町教育委員会 教育長 小谷 隆 男
職務代理 山本 義 昭
委員 川合 隆 次
委員 澤井 千代美
委員 西北 隆 代

I 点検・評価の概要

1 目 的

- 下市町においては、「教育大綱」と「教育振興基本計画」（教育基本法）を一体的に策定し、29の取組項目を設定しました。教育委員会の活動状況と合わせ、それらを「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」で定められた点検・評価の項目として、客観的な根拠を重視した教育政策を、PDCA サイクルを確立しながら推進します。
- この検証は、上記の目的で実施するものであり、同法に基づき、議会に提出するとともに公表いたします。

2 対 象

- 「点検・評価実施要領」に基づき、次の項目について点検・評価を行いました。
 - (1) 町教育委員会の活動状況と教育委員の活動について
 - (2) 具体的な施策（「第2期 教育大綱」で示された取組項目）について

3 実施方法

- 町教育委員会の活動状況については、本年度の開催状況や審議事項、研修状況等を総括し点検しました。
- 「教育大綱」における取組項目については、こども園、小学校、中学校、教育委員会事務局がそれぞれの所管する部分を点検・評価し、PDCA サイクルに基づいたシートを活用して総括しました。
- 客観性を高めるために、学識経験を有する方を「教育評価支援委員」として任命し、ご意見・ご助言をいただきました。本年度、教育長が依頼した委員は次の2名。

氏 名	所 属（ 職 ）
藤 田 謙 治	前下市町教育長、元小学校長、元県教職員課係長
徳 岡 見 英	天八山正福寺住職、元県立高等学校教員

4 審議等の経過

- 令和5年2月に、内部評価委員会で、提出された資料をもとに点検・評価を実施した結果を、教育評価支援委員に示し、ご意見・ご助言をいただきました。
- 令和5年2月の定例教育委員会において、報告書について承認しました。

Ⅱ 令和4年度教育委員会の活動状況

- * 下市町教育委員会の会議は、下市町教育委員会会議規則（平成14年教委規則第2号）第2条の規定に基づき召集し開催しています。
- * この会議において、教育長及び4名の教育委員が教育行政の基本方針の決定、教育に関する規則・要項など、様々な議題について審議をしています。

1 令和4年度定例教育委員会会議

- 開催回数 12回
- 開催日 4/11(月), 5/23(月), 6/16(木), 7/21(木), 8/18(木), 9/21(水)
10/18(火), 11/17(木), 12/22(木), 1/19(木), 2/20(月), 3/15(水)
- 議決事項

主 な 審 議 項 目
小中一貫教育の進捗について
下市町教育委員会だよりについて
下市あきつ学園校歌について
下市あきつ学園校章について
下市あきつ文化・スポーツ振興会規約(案)について
下市あきつ学園開校ガイドブックについて
下市町立学校の管理運営に関する規則の改訂について
学校教育法施行細則の改訂について
下市町通級指導教室実施要綱の改訂について
下市町通学区域規則の改訂について
下市町教育委員会点検・評価実施要領について
下市町立こども園の管理運営規則の改訂について
令和5年度の教職員人事異動について

2 教育委員の活動状況について

- 教育委員は、定例の教育委員会会議に出席するほか、町立学校園の入学式・卒業式への参加、成人式への参加、その他の諸会議へ参加しています。また、次のような近畿や県、郡単位での教育委員研修会等へ参加しています。

	月 日	内 容	開催場所
1	5月27日	吉野郡(東)町村教育委員会協議会総会	吉野町中央公民館
2	5月30日	奈良県市町村教育委員会連合会総会	大和郡山城ホール
3	10月27日	吉野郡(東)町村教育委員会協議会研修会	吉野町中央公民館
4	11月1日	近畿市町村教育委員会研修大会	オンライン
5	11月16日	奈良県市町村教育委員会連合会研修大会	宇陀市文化会館

<町の会議>

1	11月6日	第70回教育祭	下市小学校
2	11月8日	教育支援委員会	下市観光文化センター
3	3月16日	下市町総合教育会議	下市あきつ学園

Ⅲ 施策の点検・評価

1 教育委員の主な活動についての点検・評価

	重点となる活動の概要	重点となる活動の点検・評価
委員会議等	○ 年間12回の定例教育委員会を実施し、議決事項の審議を行う。	今年度は特に、次年度開校への取組内容の報告や、校章・校歌の選定などがあったが、積極的な審議が行われ、各委員の意見を十分に聞き取り、新しい教育へ向けて前向きに進めることができた。
学校園把握	○ 年間1回管理職を委員会に招聘して、学校・園の様子を聞き取る。 ○ 6月には学校・園へ訪問し、子どもの様子や施設の確認を行う。	具体的に学校園の状況を把握することは、教育委員としての方針決定に重要である。コロナ禍であったが卒業(園)式、入学(園)式については、各委員で分担して出席し告示を行った。
事業等把握	○ 町展、芸能発表大会、20歳を祝う会などの行事へ出席する。 ○ 学校建設審議会など会議へ出席、学校建設現場の状況の確認。	各行事や会議に参加し、委員それぞれに感じた意見を定例教育委員会でも出し合っていることのできる。効果的に事務局に指示しながら改善させることができている。学校建設は予定通り進めることができた。

2 具体的な施策についての点検・評価

- 「第2期 教育大綱」の、学校園教育分野19項目、社会教育分野10項目の29の取組項目(下表)を、具体的な施策の指標として点検・評価を実施します。

「第2期 教育大綱」の方向性		対応項目
学校教育分野① 目指す子ども像	○変化を前向きに受け止め、新たな時代を生き抜く子ども ○国際社会に目を向けながらも、これからの下市を築いていく子ども	取組項目 ①～④
学校教育分野② 確かな学力・生きる力を育むために	○文章や情報を正確に読み解き、対話する力 ○問題解決のための科学的・分析的な思考力 ○現実世界を生きる感性・好奇心・探求力	取組項目 ⑤～⑩
学校教育分野③ 心と身体を育むために	○運動を好きにさせる中で体力向上を図る ○環境問題等に配慮するための知識と態度を養う ○高い人権意識を身に付け、多文化共生、違いを認め合う力をつける ○個別の教育的ニーズを把握した特別支援教育を行う ○教育環境を常に最善の状態に維持する	取組項目 ⑪～⑲
社会教育分野	○社会体育活動の推進 ○文化・芸術活動の推進 ○地域の教育力向上	取組項目 社① ～社⑩

○ 評価シートについて

- (1) 園、学校、事務局が、それぞれの取組項目を検証し、委員会でまとめたものです。
- (2) 項目は、左から「取組項目」「前年度の現状(D)と本年度のアクション(A)・プラン(P)」「本年度のチェック(C)」「本年度の現状(D)と次年度へのアクション(A)・プラン(P)」になっています。本年度に目指す「アクション(A)・プラン(P)」は、前年度末にあらかじめ設定しているものです。
- (3) チェック(C)は、園、学校、事務局それぞれの自己評価を示しています。記号の意味は、◎「目標以上」、○「概ね達成」、△「取組半ば」、●「取組不足」となります。

3 各施策の点検・評価表

<下市こども園>

取組項目	対象	R3の現状(D)とR4のアクション・プラン	R4チェック(C)(▼選択)		R4の現状(D)とR5のアクション・プラン
			目標以上概ね達成	取組半ば	
③ 園・小・中一貫した郷土・伝統文化教育を充実させ、課題解決型学習に取り組む。	こども園	下市こども園教育課程に基づいて保育を進めている。令和2年度はこども園として開園し手探りだったが、昨年度は、2年目として色々な場面で改善点や取組方が見えてきた。令和4年度に向けて、職員同士の保育の共通理解や情報交換を今まで以上に深めていきたい。	目標以上概ね達成	取組半ば	下市こども園教育課程に基づいて保育を進めている。令和4年度は小学校との交流(年長児)を1回持つことができた。令和5年度に向けて、引き続き、以前のような学期に一回程度交流が図れるよう、取り組んでいきたい。
④ ALTを活用しながら、実践的な英語力を育むための授業を研究する。	こども園	週1回ALTによる英語活動を遊びに取り入れている。本年度も保育の中に取り入れ、幼児期から自然に英語力を付ける基礎にしていきたい。	目標以上概ね達成	取組半ば	以前は、週1回ALTによる英語活動を遊びに取り入れていた。令和4年度は、ALTは配置されなかったため、活動ができなかった。令和5年度は、ALTを少しでも配置していただいて、保育の中に取り入れ、幼児期から自然に英語力を付ける基礎にしていきたい。
⑤ 発表・報告等で自らを表現し、他者としっかり対話できる言語能力を育成する。	こども園	年度末の保育参観に、1年間の発表として、保護者に歌や合奏・表現遊び等の参観を実施している。令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大の為、学年別・人数制限をして実施する予定でいる。令和4年度も状況を考慮しながら実施していきたい。	目標以上概ね達成	取組半ば	年度末の保育参観に、1年間の発表として、保護者に歌や合奏・表現遊び等の参観を実施している。令和4年度は新型コロナウイルス感染症拡大の為、2月24日に学年別・人数制限をして実施する予定している。令和5年度も状況を考慮しながら実施していきたい。
⑥ 具体的な読書活動を取り入れ、豊かな読書の習慣を身につける。	こども園	学年・月齢に応じて、各クラスで絵本や紙芝居等に親しんでいる。乳幼児の時期から色々な絵本や紙芝居に触れ、興味や関心をもって活動する姿が見られる。引き続き色々な絵本等に触れ感性を豊かにする機会を増やせるようにしていきたい。	目標以上概ね達成	取組半ば	学年・月齢に応じて、各クラスで絵本や紙芝居等に親しんでいる。乳幼児の時期から色々な絵本や紙芝居に触れ、興味や関心をもって活動する姿が見られる。引き続き色々な絵本等に触れ感性を豊かにする機会を増やせるようにしていきたい。
⑧ 科学的なものの方を通して結論に導く力、分析的な思考力を育む。	こども園	こども園では、生活している中で子どもたちに驚きや発見がたくさんある。特に下市こども園は身近に自然があり四季折々の変化が見られる。本年度も子どもたちの気付きを大切にしながら、子どもたちの思考力を育てられるように教員のかかわりを大切にしていきたい。	目標以上概ね達成	取組半ば	こども園では、生活している中で子どもたちに驚きや発見がたくさんある。特に下市こども園は身近に自然があり四季折々の変化が見られる。本年度も子どもたちの気付きを大切にしながら、子どもたちの思考力を育てられるように教員のかかわりを大切にしていきたい。
⑨ 自然体験等、種々の体験活動を重視し、現実世界の価値に深く気付き、感性を磨く。	こども園	3歳児から5歳児で縦割りグループをつくり、野菜の栽培活動をしている。令和3年度は新型コロナウイルス感染症の為、栽培する野菜を少なくし、密を避ける取組をした。栽培活動を通して、育て収穫する喜びを味わえるようにしていきたい。	目標以上概ね達成	取組半ば	3歳児から5歳児で縦割りグループをつくり、野菜の栽培活動をしている。令和4年度は、密を避けながら例年通りの取組をし栽培したり、収穫する喜びを味わうことができた。今後も栽培活動を通して、友達と協力することや育て収穫する喜びを味わえるようにしていきたい。
⑩ 教員は、子どもの興味を喚起する授業(保育)を工夫し、好奇心・探究心を育む。	こども園	各保育教諭が、行事、誕生会など担当を決め保育を展開し進めている。他の保育教諭の保育を見ることで保育力を高め合っている。今後も引き続き取り組んでいきたい。	目標以上概ね達成	取組半ば	各保育教諭が、行事、誕生会など担当を決め保育を展開し進めている。他の保育教諭の保育を見ることで保育力を高め合っている。今後も引き続き取り組んでいきたい。
⑫ 生涯スポーツの基礎として、運動好きの子どもを育てるための授業(保育)や運動部の方針。	こども園	本園は恵まれた環境(広い運動場や固定遊具等)を利用して、運動的な遊び(ボール遊び、縄跳び、サーキット遊び、砂場遊び、色々な鬼ごっこ)を展開している。11月には、毎朝、かけ足をして体力作りに取り組んできた。本年度も継続して取り組みたい。	目標以上概ね達成	取組半ば	本園は恵まれた環境(広い運動場や固定遊具等)を利用して、運動的な遊び(ボール遊び、縄跳び、サーキット遊び、砂場遊び、色々な鬼ごっこ)を展開している。11月には、毎朝、かけ足や縄跳びをして体力作りに取り組んできた。次年度も継続して取り組みたい。
⑬ 環境問題等と向き合い、持続可能な社会の実現を目指す知識・態度を養う。	こども園		目標以上概ね達成	取組半ば	子どもたちに物を大切にする事を年齢に応じて保育教諭が紙芝居や絵本を見て話をして取り組んできた。小さなことであるが「電気を消す」「水道の水を出しっぱなしにしない」「残さず食べる」等見直してきた。令和5年度も、保育教諭も子どもたちと一緒に引き続き取り組んでいきたい。

	取組項目	対象	R3の現状 (D)とR4のアクション・プラン	R4チェック (C) (▼選択)		R4の現状 (D)とR5のアクション・プラン
⑭	お互いが違いを認め合う雰囲気を作り、初期対応を重視して「いじめ」等をなくす。	こども園	子どもたちにとって、日常生活の遊びの中で色々なことにぶつかり、相手の気持ちを理解する場面がたくさんある。そんな中で担任は見逃さずに話をする時間を作っている。今後も子どもたちの変化に気がつきながら保育を進めていきたい。	目標以上 概ね達成 取組半ば 取組不足	○	子どもたちにとって、日常生活の遊びの中で色々なことにぶつかり、相手の気持ちを理解する場面がたくさんある。そんな中で担任は見逃さずに話をする時間を作っている。今後も子どもたちの変化に気がつきながら保育を進めていきたい。
⑮	道徳の授業(保育)やあらゆる場面で、国際社会でも通用するような人権感覚を育む。	こども園	上記項目に同じ。	目標以上 概ね達成 取組半ば 取組不足	○	上記項目に同じ。
⑯	個々の課題を把握し、可能性を最大限に伸ばす特別支援教育を行う。	こども園	昨年度は特別支援を要する園児が2名いた。その子に寄り添いながら、集団になじめるように保育を展開してきた。本年度も担当教員保育教諭間の共通理解を図りながら支援をしていきたい。	目標以上 概ね達成 取組半ば 取組不足	○	特別支援を要する園児が年中児2名いる。その子に寄り添いながら、集団になじめるように保育を展開してきた。令和4年度は運動会等色々な行事にも参加できる姿が多く見られた。令和5年度は就学に向けて担当教員保育教諭間の共通理解をさらに図りながら支援をしていきたい。
⑰	教職員は常に研修(ICTや教科指導等)を怠らず、向上心をもって教育に当たる。	こども園	昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大の為、県や郡内の幼稚園こども園会の研修が、オンラインやミートでの研修が増えICTの知識を深める機会となった。今後もより一層、職員の研修を進めていきたい。	目標以上 概ね達成 取組半ば 取組不足	○	令和4年度も、新型コロナウイルス感染症拡大の為、県や郡内の幼稚園こども園会の研修が、オンラインやミートでの職員の研修が増えICTの知識を深める機会となった。また、今後もより一層、職員の研修を進めていきたい。
⑱	安全・安心を基本に、施設・設備を最善の状態に維持する。	こども園	毎月1回、安全点検日を設けて、全職員で点検をしている。自分たちで改善できない時は、教育委員会にお願いし、修理・改修をお願いしている。本年度も、子どもたちの安全がいつも確保できるように点検を行っていききたい。	目標以上 概ね達成 取組半ば 取組不足	○	毎月1回、安全点検日を設けて、全職員で点検をしている。自分たちで改善できない時は、教育委員会にお願いし、修理・改修をお願いしている。本年度も、子どもたちの安全がいつも確保できるように点検を行っていききたい。

<下市小学校>

	取組項目	対象	R3の現状(D)とR4のアクション・プラン	R4チェック(C)(▼選択)		R4の現状(D)とR5のアクション・プラン
				目標以上	概ね達成	
①	ICT技術で広がる新しい学びを推進する。誰一人取り残さない学びの実現。	小学校	各学年によって差異はあるもののムーブノートやロイロノートでの意見の交流、またミライシードやメクビットによるオンラインドリル学習に取り組んでいる。来年度も継続した取組を進める。	○		発達段階や学習内容に応じてタブレットを活用し、ロイロノート(授業用ソフト)等で意見交流や情報整理を行った。また、オンラインドリルで学習の復習を行った。授業で必要に応じたタブレットの活用をさらに推進し、新しいAIドリルの活用による個別学習の機会を作る。
②	5、6年に教科担任制を実施し、多くの教員で子どもに関わり信頼感を高める。	小学校	各教科授業時数等にばらつきがあった。今年度以上に綿密な打ち合わせが必要である。また、日頃の児童の様子についても情報交換等行っていく。	○		中学校へ登校する曜日に行事を入れることを少なくすることで、授業時数を確保し計画的に授業ができた。子どもたちの様子については継続的に情報交換を行った。さらに丁寧な連携をすることで、より一層信頼感を高められる。
③	園・小・中一貫した郷土・伝統文化教育を充実させ、課題解決型学習に取り組む。	小学校	小中研修部会で9年間の下市学の計画素案を作成。各学年、下市学を意識した取り組みを徐々に実施中。来年度は、9年間を見通した活動につなげる。	○		「教えないスキル」に基づいた授業を展開し、児童が探的に取り組む学習を進めた。小中合同研究部が「下市学」の9年間の指導計画を完成させた。次年度からはそれを基に系統的に実施していく。
④	ALTを活用しながら、実践的な英語力を育むための授業を研究する。	小学校	ALTをより効果的に活用し、コミュニケーションツールとしての習得を図る。	○		全ての学年の外国語学習でALTに学習に入ってもらうことで、より効果的な授業展開を行うことができた。特に、「聞く」「話す」の技能の習得に役立っている。今後、日常でも英語を使おうとする姿勢が見られることを期待する。
⑤	発表・報告等で自らを表現し、他者としっかり対話できる言語能力を育成する。	小学校	校内研修を重ね、スピーチや各教科において対話的活動を行っている。学習の中での言語能力は少しずつ高まっているが、日常生活の中で生かす力につながっていない面がある。国語科を中心に学習活動全般で、推進していく。	○		「教えないスキル」で育む力という研究主題のもと、課題解決やペア・グループでの話し合い活動などに重点をおいた授業を行った。全学年で研究授業を行い、研修を重ねた。さらに、他者の意見をしっかりと聞き、自らの意見を伝えることができる力を育みたい。
⑥	具体的な読書活動を取り入れ、豊かな読書の習慣を身につける。	小学校	毎月、ビンゴや読み聞かせ、おすすめの本などの取り組みを行い、児童が図書に触れ合う機会を多く取り入れた。貸出冊数が30冊をに満たない児童について、今後も様々な取り組みをしていく。	○		朝読書や毎月のビンゴや読み聞かせ、おすすめの本紹介などの取組を行い、児童が本を読む習慣や図書に触れ合う機会を多く取り入れた。高学年は、中学校図書室での貸出があったので、より図書に触れる機会が多くなった。
⑦	ICT技術を敬遠せずに使えるスキルを身につけ、情報編集力を育成する。	小学校	体系表を作成し、3年生からのタイピングを進めている。ホームポジションタッチタイピングの習得に関しては、継続した取組が必要である。	○		タブレットを学習道具のひとつとして使用できるようになっており、タイピングも3年生以上の児童は昨年度に比べできるようになっている。使用方法または情報モラルについて教職員も研修を重ね、児童の適切な情報活用能力を育みたい。
⑧	科学的なものの見方を通して結論に導く力、分析的な思考力を育む。	小学校	問題解決的な学習の実施というところには至っていない。今後、研修の時間を取り入れるなど工夫をしていきたい。	△		「教えないスキルで育む力」という研究主題の基、課題解決型の学習を行っている。全員が科学的なものの見方を通して結論に導くまでには至っているとは言えないが、「考える」習慣は身につけてきたので、分析的な思考力につなげたい。
⑨	自然体験等、種々の体験活動を重視し、現実世界の価値に深く気づき、感性を磨く。	小学校	一昨年度から続くコロナ禍の影響で、これまでのような活動にはなっていない。しかしながら、地域パートナーシップ事業の取組が継続的に続いており、各学年で計画的に可能な限り実施を進めている。	○		「下市学」を通して各学年様々な体験活動を取り入れることができた。現地までの移動手段の確保が課題である。また、地域パートナーシップ事業も継続的に行うことができていく。今後さらに発展させるために、地域の資源(人的、物的)の開発が急務である。

	取組項目	対象	R3の現状 (D)とR4のアクション・プラン	R4チェック (C) (▼選択)	R4の現状 (D)とR5のアクション・プラン
⑩	教員は、子どもの興味を喚起する授業を工夫し、好奇心・探究心を育む。	小学校	全職員で研修を行ったり、研究授業や授業ウォッチングを実施したりすることで、授業力や児童理解を高めてきた。来年度は、研修テーマを見直し、本校児童に必要な力をさらに身に付けさせるようにしたい。	目標以上 概ね達成 取組半ば 取組不足	教えないスキル」で育む力という研究主題のもと、授業計画を作成し、課題解決やペア・グループでの話し合い活動などに重点をおいた授業を行った。全学年で研究授業・研修討議を行い、研修も重ねた。
⑪	体育の授業において9年間一貫した効果的な指導法の研究を進める。	小学校	新学習指導要領対応の体育科年間指導計画を学校行事も鑑みて作成している。来年度は、これをもとに中学校教員とも連携しながら、9年間を見通して、よりよい方向へと検討を重ねる。	目標以上 概ね達成 取組半ば 取組不足	中学校で履修する運動を見据え、児童の体力・運動能力の現状を中学校体育教員と打ち合わせをすることによって今年度は児童の実態に合わせた学習をさせることができた。来年度は年間計画に基づき、9年間をより見通した系統的な学習をさせていきたい。
⑫	生涯スポーツの基礎として、運動好きの子どもを育てるための授業や運動部の方針。	小学校	現段階では、時間の兼ね合いもあり、特活に中学校教員が入る予定はない。体育の授業で、運動量を増やすような授業を展開している。	目標以上 概ね達成 取組半ば 取組不足	今年度は体力向上や学年を超えての関わりをねらいとして月に2回「ジャンプアップタイム」を設け、2学期にはハの字大会も開催した。今後も運動をがんばるだけでなく、生涯にわたり運動・スポーツに親しめるような楽しみや喜びを味わわせたい。
⑬	環境問題等と向き合い、持続可能な社会の実現を目指す知識・態度を養う。	小学校	各学年で取り組みを進めている。今後、下市学への移行も含め、系統立った取り組みを考え、データに残して受け継いでいく必要がある。	目標以上 概ね達成 取組半ば 取組不足	誰一人取り残すことのない教育の実践はできた。しかし、持続可能な社会の実現に向けた取組としては十分とは言えない。次年度から実施する「下市学」の指導計画では、全ての活動をSDGsと関連づけたものにした。9年間を見通して計画的に実施したい。
⑭	お互いが違いを認め合う雰囲気を作り、初期対応を重視して「いじめ」等をなくす。	小学校	児童の思いをしっかりとつかみ、自分はどうしたいのか、どうしなければいけなかったのかを考えさせたい。個々の思いを教職員や児童の関わる集団、教職員で醸成した上で、集団への投げかけを行うことを通して、集団づくりへとつなげていきたい	目標以上 概ね達成 取組半ば 取組不足	児童の実態に合わせて今年度は「ありがとうの木」を設置したり、学期に一回人権集会を開催したりした。見える形で「ありがとう」をつたえ、よりよいコミュニケーションの取り方を考えさせた。来年度も、集会や講話を計画し、児童生徒たちに種をまき続けたい。
⑮	道徳の授業やあらゆる場面で、国際社会でも通用するような人権感覚を育む。	小学校	令和3年度と同様に進め、道徳科の目指す目標の習得に近づけたい。	目標以上 概ね達成 取組半ば 取組不足	年度初めに立てた年間指導計画に基づき、「なかま」や教科書を使用した学習を進めた。学級の実態、家庭環境に配慮するなどして、内容を精査する必要がある。
⑯	個々の課題を把握し、可能性を最大限に伸ばす特別支援教育を行う。	小学校	定期的に全職員で情報交換する機会を取るとともに、特に気になる児童については、校内特支委員会対応を考えていく。	目標以上 概ね達成 取組半ば 取組不足	「個別の支援計画」「個別の指導計画」に基づき、各自のニーズに合った教育を行うことができた。支援員とも週に1回の情報交換の時間をもった。引き続き、全職員での共通理解のもと、特別支援教育を行いたい。
⑰	発達障害などに対応した通級指導教室を開設し充実させる。	小学校	担当の適切な運営により、職員間の通級指導教室に関する理解と連携を進めることができた。今後は、学習補充ではなく、児童一人一人に応じた教育内容を指導の柱として、通級指導を充実させていきたい。	目標以上 概ね達成 取組半ば 取組不足	児童一人一人に応じた、教育内容を考え指導することができた。意欲的に活動する児童の姿が見られ、効果が出ていると考えられる。現在未入級の対象児童の積極的な入級を進めたい。チラシ等での啓発は行っている。
⑱	教職員は常に研修 (ICTや教科指導等) を怠らず、向上心をもって教育に当たる。	小学校	夏季休業中に職員でICTの研修を行い、Googleのクラスルームでの投稿の方法や、アドビパークの研修を行った。個々の取組が進んでいるので、系統立った取組への意識化を図りたい。	目標以上 概ね達成 取組半ば 取組不足	「教えないスキル」を身につけ、子どもが主体の授業づくりのために研究・研修に励んだ。日々試行錯誤しながら教育活動に取り組んでいる。「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けてさらに実践を積み重ねたい。
⑲	安全・安心を基本に、施設・設備を最善の状態に維持する。	小学校	今年度同様、計画的に、丁寧に進めていきたい。	目標以上 概ね達成 取組半ば 取組不足	教育委員会と連携しながら、安全・安心を意識して、施設・設備の営繕に努めた。新校舎の維持・管理も積極的に行いたい。

<下市中学校>

	取組項目	対象	R3の現状 (D) とR4のアクション・プラン	R4チェック (C) (▼選択)		R4の現状 (D) とR5のアクション・プラン
				目標以上	概ね達成	
①	ICT技術で広がる新しい学びを推進する。誰一人取り残さない学びの実現。	中学校	教科によって多少の差はあるが、学校全体では、使用場を考え、授業の3割程度でICT機器を活用している。ICT機器に関する校内研修を3回実施し、教職員のスキル向上につなげ、指導に生かしている。その成果を授業や「本日の下市中」で即座に活用することで、全ての生徒が活躍できるようになってきている。	目標以上 ○		教科によって多少の差はあるが、ロイロノートを活用した学習、書画カメラのユニバーサルデザイン、Qubenaやミラインドを活用した課題提出及び学習支援等、様々な視点で取り組んでいる。今後、学校全体でそれらのICT機器の活用を含め、校内研修等で共有し、教職員のスキル向上と指導に活かしていく。
②	5、6年に教科担任制を実施し、多くの教員で子どもに関わり信頼感を高める。	中学校	専門知識を活かしながら視聴覚教材も補助的に活用して、児童が興味を持てる授業を行うことができた。児童は「分かりやすい」や「楽しい」など概ね肯定的に捉えている。また、児童の様子や授業の内容について交流を図った。学期末には児童の様子を文章で担任に伝え、情報共有を行うこともできた。さらにわかりやすい授業にするために準備や自己研修も必要であると考えられる。	目標以上 ○		専門知識を活かしながら、Qubena等の補助教材も活用して、後期課程にスムーズに移行できるように授業を展開した。来年度以降も児童たちが主体的におこなえる授業を実施していきたい。また、児童の様子や授業の内容について交流を図り、児童の様子を学級担任に伝え、情報共有を行った。今後は授業改善に繋げるために研修が必要である。
③	園・小・中一貫した郷土・伝統文化教育を充実させ、課題解決型学習に取り組む。	中学校	「SDGsスタートブック」を活用し、各学年の実態に合わせて学習を進めた。行事や授業と関連付けて学習したことで、SDGsに対する関心が高まった。コンテストにも応募した。郷土・伝統文化教育については「下市学」の内容について小・中で検討した。9年間を見通した郷土学習のかたちをつくり、令和4年度から実施できるものは実施していく。	目標以上 ○		「下市学」では、ふるさとの伝統・文化についての学習に取り組んだ。地域の方をゲストティーチャーとして招いたり、フィールドワークを行ったりしたことで、ふるさとへの理解や愛着を深めることができた。また、SDGsと関連付けながら学習したことをまとめ、これからのまちづくりについて考えることができた。今後、系統立てた学習内容をさらに充実させていく必要がある。
④	ALTを活用しながら、実践的な英語力を育むための授業を研究する。	中学校	授業内で英語を使用することにより、生徒が英語に慣れ親しむ環境はできつつある。出来上がった英文を音読したり、発話したりできるが、自主的な発話がなかなかで授業外の簡単な日常会話につなげたい。ただ、ALTが日本語でも理解できてしまうので、ALTの活用に課題が残る。	目標以上 ○		授業内で英語を使用し、デジタル教科書も使って英語に慣れ親しむ環境はできている。生徒の自主的な発話を促しながらALTとの対話ができるように展開していきたい。また、ALTが生徒に積極的に話しかけることで、より自然な英語力を身に付けさせたい。
⑤	発表・報告等で自らを表現し、他者としっかり対話できる言語能力を育成する。	中学校	各教科において、対話的な活動を行い、自分の考えを交流する場を設けた。また、調べた内容を新聞にしたり、小学生へ発表したりして、構成や内容を考えて表現できていた。一方、説得力のある説明には課題が見られる。今後は、データの信頼性や正確性を考えさせようとして、根拠のある発表や報告ができるようにさせる必要がある。	目標以上 △		各教科において、対話的な活動を行い、相手の考えから自分の考えをさらに深めるなど、意見交流を行った。討論や振り返りを通して自分の考えをまとめる力がついてきている。一方、根拠となる考えがあいまいであったり、表面的な表現になってしまう場面も見られる。今後は相手に伝える表現方法や報告ができるようにさせる必要がある。
⑥	具体的な読書活動を取り入れ、豊かな読書の習慣を身につける。	中学校	継続して「下市読書まつり」への取組を行った。夏休みの間を通して感想文を書き、9割を超える生徒が応募した。また、グループ活動を通して、感想を伝え合い、共有する機会を設けた。しかし、休み時間中の教室や図書室の様子から、読書の習慣が身についているとは言いがたい。今後は、他の読書活動を取り入れ、これまで以上に本に触れる機会をつくる必要がある。	目標以上 △		昨年に引き続き、作品の出品や図書室の開放を行っている。また、学年によっては学級文庫をつくり本に触れる機会を設けている。ただし、教師側からの働きかけや奨励は不十分であった。今後は、授業でのさらなる取組をめざすとともに、一新された図書室を効率的に活用させながら、読書の習慣を身につけさせる必要がある。
⑦	ICT技術を敬遠せず使えるスキルを身につけ、情報編集力を育成する。	中学校	生徒にとってはタブレットがあることが自然な状態となっている。全学年、技術の時間にPCを用いて、情報スキルの向上を目指した。校外学習や行事ポスター等、様々な場面で、PowerPointを使って作品作りをした。また、発表の機会を設けてプレゼンの練習もしている。今後、さらに回数を重ねていく。また、新聞作り、観光HP等でもWordを使い、生徒たちは使いこなせている。今後の課題は、著作権等もさらに意識しながら作品作りを通して情報スキルの向上につなげたい。	目標以上 ○		全学年、技術の時間にPCを用いて、情報スキルの向上を目指した。校外学習や行事ポスター等、様々な場面で、PowerPointを使って作品作りをした。また、総合の時間と関連付けながら、発表の機会を設けてプレゼンの練習も行った。さらに、各学年で習得した知識や技能を基に、新聞作りやまとめレポートに活用している。今後の課題は、将来に役立つ知識や技能を身に付けさせるとともに、作品作りを通して情報スキルの向上につなげたい。
⑧	科学的なものの見方を通して結論に導く力、分析的な思考力を育む。	中学校	全学年、観察・実験のワークシートを活用し、「目的」から「考察」までの流れを確立させることができた。また、観察・実験後の授業やノートでふり返りを行い、学力の定着を図ることもできた。定期テストにおいて、実際に行った観察・実験に関する問題の正答率も高く、成果は出ているといえる。しかし、ロイロノートを活用する機会を設けることができなかったため、教材研究のさらなる充実を目指す必要がある。	目標以上 ○		目的意識をもった観察・実験から「仮説⇒実験⇒結果⇒考察」の流れを意識して授業することができ、生徒たちにも観察・実験を意欲的に取り組む姿勢が見られるようになった。一方で、自分たちで試行錯誤して結論を導き出すよりも、すぐに答え(正解)を求める傾向も見られる。また、観察・実験については、授業形態の制限や授業時間の不足などにより、教科書に記載されている実験全てを実施することが困難な状況にある。ICT機器を活用して、探究的な学びを創り出していくとともに、観察・実験の機会を増やす工夫等を行う。

	取組項目	対象	R3の現状(D)とR4のアクション・プラン	R4チェック(C)(▼選択)	R4の現状(D)とR5のアクション・プラン
9	自然体験等、種々の体験活動を重視し、現実世界の価値に深く気づき、感性を磨く。	中学校	野外学習、校外学習、修学旅行を通して、その場所での味わえないことや様々な価値観や考え方に触れることができた。これらの体験を通して子ども達は大きく成長した。これからは学んだことを地域の歴史や産業、人に目を向け学習を進め、郷土を愛する下市学に繋げていく。	目標以上 概ね達成 取組半ば 取組不足	野外活動、職場体験、修学旅行それぞれの行事を行うことができた。事前学習や事後の取組を通して仲間とのかわりを大切にしたり、これからの自分の将来につなげていったりできる内容であった。下市学の学習と関連させながら進めていきたい。
10	教員は、子どもの興味を喚起する授業を工夫し、好奇心・探究心を育む。	中学校	ICT機器を活用する授業づくりの基盤は整い、子どもの興味関心を引き出す授業の組み立てはできつつあるが、探究的な学びを深めていくことが今後の課題である。 1学期に教室と職員室そして県立教育研究所とをオンラインで繋いだ研究授業を実施した。次年度も常に新鮮な気持ちで実践を積み上げていくことが必要である。	目標以上 概ね達成 取組半ば 取組不足	ICTの機器を活用した授業作りとして、Qubenaを用いた授業展開やロイロノートでの情報共有を行い、生徒自らが興味を持って調べ、取り組めるような授業を行うよう取り組んだ。さらに好奇心・探究心を深めるために課題発表などにより生徒同士が考え、協力しあえる機会を授業内外問わず増やしていく必要がある。そして、「教えないスキル」に基づいた授業で、主体的・対話的で深い学びに繋げていく。
11	体育の授業において9年間一貫した効果的な指導法の研究を進める。	中学校	多くの児童生徒が運動に前向きに取り組み、仲間とのコミュニケーションも大切にしながら、「共に学ぶ」授業を展開できた。一方、今年度の体力テストの結果では、全国平均を上回っている項目が8項目中、平均2.8項目となっており体力には課題を感じる。	目標以上 概ね達成 取組半ば 取組不足	多くの児童生徒が運動に前向きに取り組んでいる中で、コロナ対策としてオンライン授業や部活動の中止などが重なり、児童生徒たちの運動に関わる時間が少なくなっている。そのため、日頃の体育授業での活動を見ていると持久力・体幹などの力が低いと感じる。体力テストは参考ではあるが、全国平均に比べて低い種目もあったため、効果的な指導法の研究を進めていく。
12	生涯スポーツの基礎として、運動好きの子どもを育てるための授業や運動部の方針。	中学校	体育の授業や体育的行事を通して、楽しさや喜びを味わうことができた。また部活動において、横断的に交流できる機会を設け、活動することができた。今後は外部と交流するなど、より活性化を図りたい。	目標以上 概ね達成 取組半ば 取組不足	体育の授業や体育的行事、部活動を通して、運動・スポーツの楽しさや喜びを味わうことができている。これからは義務教育学校として体育的行事を運営し、部活動については下市あきつ文化・スポーツ振興会とも連携し、体制を確立させることが必要である。
13	環境問題等と向き合い、持続可能な社会の実現を目指す知識・態度を養う。	中学校	いろいろな教科でSDGsに絡めた内容が教科書に掲載されており、授業でも取り上げることができているが、主体的・対話的な授業を行うための工夫は、今後各教科担当で研究していく必要がある。各学年の取り組みとしても、SDGsスタートブックを活用しているが、その取り組み内容を振り返って、来年度に継続すべき点と改善すべき点を引き継いでいく必要がある。	目標以上 概ね達成 取組半ば 取組不足	NHK for SchoolのSDGsカルタに応募したり、人権講話でSDGsへの関心と学びを深めた。一方、それらの取り組みに対する声かけは教員発信のものが多く、生徒が感じていることや考えていることを引き出しきれていないところもある。各教科でのSDGsに関する内容や各学年での取組内容を振り返り、生徒が主体的に取り組めるような題材の選定を進めていく必要がある。
14	お互いが違いを認め合う雰囲気を作り、初期対応を重視して「いじめ」等をなくす。	中学校	研修等を通して、職員・保護者・生徒のいじめに対する認識が変わってきている。生徒や保護者の思いに寄り添い、積極的にいじめを認知し、些細なことも見逃さない体制をつくった。また今年度、理由に乏しい校則はいくつか改めた。今後、義務教育学校に向けて自由な校風を目指し、自ら考え判断する力を大切にしていきたい。	目標以上 概ね達成 取組半ば 取組不足	些細なことでも教員で声かけを行い、いじめ対策委員会を適宜開催し、事象の把握、認知を行った。校則を守れない生徒については対話を重ね、保護者にも伝えて自ら判断できるように接している。今後は義務教育学校に向けて自由な校風を目指し、自ら考え判断する力を大切にしていきたい。
15	道徳の授業やあらゆる場面で、国際社会でも通用するような人権感覚を育む。	中学校	推進計画に基づいて人権教育を進めた。個別の人権課題についても各学年で取り組み、昨年度の内容を改善して行うことができた。さまざまな取組のなかで、生徒の人権感覚をさらに育成していきたい。また、教師自身も人権感覚を磨くため、積極的に研修等へ参加していく必要がある。1学期に道徳授業の研究授業を行い、道徳授業の在り方や評価について等、全体で研修することができた。	目標以上 概ね達成 取組半ば 取組不足	人権教育推進計画に基づき計画的に進めた。また、道徳教育を通して、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養うことを心掛けた。今後、これまで積み上げてきた人権教育を継承・発展させ、子どもの実態に合わせたカリキュラムを作成し、見通しを立てて実践する。教職員自らも、学習の充実を図り、指導力の向上を目指す。
16	個々の課題を把握し、可能性を最大限に伸ばす特別支援教育を行う。	中学校	今年度から今までとは形を変えて、本格的に取組を始めた。少しずつ形は出来てきている。今後、合理的配慮が適切に提供できるように改善していきたい。	目標以上 概ね達成 取組半ば 取組不足	個々の課題に着目しながら、それぞれに応じた学習内容で進めている。自立活動の時間も取り入れ、3年生の進路決定では教育委員会・保護者・学校が密に連携を図りながら取り組んでいる。今後は、特別支援体制を整えるとともに、より一層自立活動の時間を充実させることに力を入れていきたい。
18	教職員は常に研修(ICTや教科指導等)を怠らず、向上心をもって教育に当たる。	中学校	職員研修については各学期の研究授業、人権、ICTの活用、通級による指導について、などの機会を設けることができた。授業見学についてはさらに積極的に行う必要がある。特に小学校の授業については各教科で中学校の専門性を活かしつつ、授業づくりをさらに追求していく必要がある。	目標以上 概ね達成 取組半ば 取組不足	昨年同様、各学期に研究授業を行った。また、下市あきつ学園設立に向けての情報交流、講師を招いての「教えないスキル」の講義など小中の教職員が連携して研修を行った。今後は、下市あきつ学園を運営していくうえで「教えないスキル」を継続した研修及び実践に取り組んでいきたい。
19	安全・安心を基本に、施設・設備を最善の状態に維持する。	中学校	危機管理マニュアルは随時検討しながら、アップグレードを行っている。 今後も点検をしつつ改善していく。 施設・設備の状態確認を確実にし、必要に応じて修繕をし、安全に使える状態を維持している。	目標以上 概ね達成 取組半ば 取組不足	危機管理マニュアルは随時検討しながら、アップグレードを行っているが、来年度は新学校に合うように改善していく必要がある。また、施設・設備の状態確認を確実にし、必要に応じて修繕をし、安全に使える状態を維持していきたい。

<社会教育分野> ①社会体育活動の推進 ②文化・芸術活動の推進 ③地域の教育力向上 取組項目 社①～⑩

取組項目	指標の例	対象	R3の現状(D)とR4のアクション・プラン	R4チェック(C)(▼選択)		R4の現状(D)とR5のアクション・プラン
				目標以上概ね達成	取組半ば	
社① グラウンドや総合体育館でのニーズに応じたスポーツ活動の推進	活動回数、利用回数	体育	グラウンドゴルフ・ゲートボール等地域住民の軽スポーツへの取り組みの場を提供することができた。また、総合体育館トレーニング室の活用促進を図るために、町民に周知を行い、利用拡大を図れた。今後においてもより多くの方が利用していただけるように、整備や周知を図る。	目標以上概ね達成 取組半ば 取組不足	○	今年度はゲートボールチームが全国大会に出場するなど、地域住民が活発に軽スポーツ取り組んで活動されている。今後も引き続き少しでも多くの方が参加できるように環境整備に努め、町民の運動機会を増やすと共に、健康増進に寄与できるような取組を行う。
社② 子どもから高齢者までが楽しめる町民体育祭の実施	年別参加者数	体育	コロナ禍により、R3も開催を見合わせたが、唯一多くの町民が集う体育祭であるので、参加しやすい競技の内容を実行委員会で検証して取り入れて、R4の町民体育祭は多くの世代の町民が参加できるような場になるようにしていく。	目標以上概ね達成 取組半ば 取組不足	△	コロナ禍ではあったが、多くの町民が集う体育祭を平日開催ではあるが、感染対策を取りながら実施予定であったが天候不良のため急遽中止となった。R5年度は全日開催して多くの町民が参加出来るようにする。
社③ 町展や芸能発表大会等を実施し、文化・芸術活動支援を充実させる。	実施件数・出点数	文化	町展・芸能発表大会については、コロナ禍によりR3も開催を見合わせたが、R4は3年ぶりに開催できるよう幅広く周知を行い、参加者を募り実施していく。	目標以上概ね達成 取組半ば 取組不足	○	3年ぶりに町展・芸能発表大会を開催することができ、多くの団体が参加してくれた。R5年度はさらに幅広く周知を行いより多くの町民が参加してもらえるように取り組んでいく。
社④ 町の伝統行事や伝統芸能の保存・継承への支援	個別の支援状況	文化	貴重な民族資料や地域の伝統文化等を後世に伝えていくことは、町にとって必要不可欠なことであることから、保存・継承に努めたが限られた形となった。今後においては、学芸員などの多くの人的援助を受けながら少しでも多く保存・継承に努める。	目標以上概ね達成 取組半ば 取組不足	○	地域の伝統行事や伝統文化は次世代に継承していくべき大切な財産であることから、観光文化センターでの特別展示や、文化講演会を開催して町民へ周知を行った。今後、さらに地域住民等と連携を図りながら、保存や活用を行い継承に努める。
社⑤ 町の文化財や歴史遺産を保護・活用し、文化財への認識を高める。	保護活用広報の状況	文化	新しくなった「下市町の文化財」パンフレットを活用して、町の歴史や文化について周知を図り、老朽化した既存文化財看板については改修を図れた。今後においても、少しでも多くの町民に「町の文化財」や「町の歴史」に触れる機会を作っていきたい。	目標以上概ね達成 取組半ば 取組不足	○	下市町には、まだまだ町民が知らない町の歴史や文化があり、教育委員会だよりで町民に周知をしている。今後においても下市町の歴史や伝統、文化に誇りや愛着を深めていくことができるように、教育委員会だよりや講演会等を通して周知に努める。
社⑥ 足を運びたいくなるような図書館運営と読書の啓発。	利用状況	文化	概ね利用者のニーズは対応できた。今後においても利用者からの蔵書のリクエストに少しでも答えられるように、今一度内容を検証して、サービスの向上に努める。	目標以上概ね達成 取組半ば 取組不足	○	今年度も利用者のニーズに対応できたが、図書館は知識・情報の拠点として、今後も予算の範囲内で新刊の充実を図ると共に、利用者の要望に応えるためにサービスの充実に努める。
社⑦ 人権学習を進め、町内に人権尊重の文化を根付かせる。	人権学習などの度合	地域	町民に人権尊重の意識をより高めることは出来ていない状況であり、今後においては人権が尊重される社会の実現に向けて、より一層の啓発に努める。	目標以上概ね達成 取組半ば 取組不足	△	全ての人の人権が尊重され、安心して生活できる地域社会を実現するためには、1人1人が人権教育に関心を持ち取り組む必要があり、今後も人権が尊重される社会づくりを目指す啓発活動に努める。
社⑧ 自立した社会性豊かな青少年の育成を、町ぐるみで促進する。	地域見守り等の度合	地域	家庭・学校・地域それぞれの結びつきを大切と考え、よりよい町の環境・地域づくりを目指してきているが、達成出来てはいない。今後において地域社会が希薄になる中、町ぐるみで青少年の安全確保と健全育成のためできる限りの環境・地域づくりに努める。	目標以上概ね達成 取組半ば 取組不足	△	地域住民同士のコミュニケーションが希薄化してきている中で、次代を担う青少年を心豊かにたくましく育てるため、地域全体で子ども達の健全育成を行うことは非常に重要なことであるので、誰もが安全して暮らしていける地域づくりに努める。
社⑨ 家庭教育での基本的な生活習慣を基盤に、望ましい人間関係の構築。	家庭教育学級の度合	地域	今年度はコロナ禍により活動は出来なかったが、講座等を通じて子育ての悩みや日頃の悩み等を少しでも解消できるよう、また、親同士が気兼ねなく参加できる講座等を開催していく。	目標以上概ね達成 取組半ば 取組不足	△	近年は核家族化や地域社会との関わりが希薄になりつつありますが、子どもにとって健やかに育つには地域の方々の関わりも大切であることから、親同士や地域住民等が交流できる機会や講座等の開催を検討する。
社⑩ 幅広い子育て支援を行い、家庭及び地域教育力の向上を図る。	子育て支援の具体件数	地域	子育てする方に対し、相談の場や交流の場の支援が足りなかった。今後においては、幅広く情報を提供して、子育て世代の支援の充実を図る。	目標以上概ね達成 取組半ば 取組不足	△	コロナ禍で地域子育て支援センターの利用が少なかった。今後さらに利用促進を図り、子育て世代の支援や情報提供の場、交流の場となるように周知を図る。

IV 教育評価支援委員からの意見

1 教育委員会の活動状況について

- ・ 学校建設までの教育委員会の動きについて、大きな問題なく適切に進められており、校舎の外観はとても美しく仕上がっている。
- ・ 下市あきつ学園のガイドブックの内容について、AIドリルなどの先進的な教育教材の導入や、先進的な電子黒板機能付きプロジェクターなど、これからの時代を見据えた方向性をもちながら、教育委員会は新しい学校を作ろうとしている。

2 施策の点検・評価について

① こども園、小学校、中学校

- ・ ICT教育、情報科教育は、ここ数年でかなり充実してきている。AIドリルや電子黒板などの教育機器もめざましく進化している。子どもたちが学校でICT教育機器を使って学習しなければ、将来的に社会の構成員になっていく者として、その能力を培う機会を逸してしまうことになる。下市町の子どもの状況はとても喜ばしいことである。
- ・ 「教えないスキルで育む力」を研究テーマに、小中の先生方が新しい教育を模索していることがよくわかる。高校野球の監督も昔のように一方的に怒鳴りつける指導ではなく、子どもの特性をよく理解して、考えさせる指導に変わってきている。教科の指導においても同様であるのだと理解できる。
- ・ ただ、「主体的に学習に取り組む態度」を育てていくことは、ベースとなる基本的な学力が備わってないとかなり難しく、先生方の相当の努力が必要になるのではないか。
- ・ 開校ガイドブックには、「学習の手引き」や「家庭学習の手引き」が細かく示されており、毎日の積み上げや繰り返しがいかに大事であるかを伝えている。新しいAIドリルの活用でそれを後押しできるのではないか。
- ・ 「下市学」には大いに期待しているが、どの学年でどのように進めていくのが、大変難しいのではないかと思う。子どもたちが自由にテーマを決め自由にまとめしていくためには、先生方の下支えがかなり必要なのではないかと思う。
- ・ 今後、9年間を見通した下市独自の学習カリキュラムの作成を期待する。
- ・ 小中教員の意識や学校文化の違いを乗り越えることが難しく今後の課題となる。

② 社会教育などの分野

- ・ 体育祭は中止となったが、次年度からの体育・文化的な行事の取組に期待する。
- ・ 「下市学」にもつながる、町内の産業（箸、エビの養殖など）や、歴史的な文化財などを社会教育として、様々な場面で啓発していくことは大切なのではないか。

3 その他、本年度の課題など

- ・ 現在の学校ホームページが非常に優れている。毎日の様子が更新されていたり、懐かしい過去の写真が掲載されていたりするなど、素晴らしいと感じている。
- ・ 全国学力学習状況調査での成績の状況がひとつの目安になると考える。
- ・ 新しい取組を進めることは、指導者の力量が問われることになる。先生方の捉え方がバラバラにならないよう、教育委員会が率先して指導していただきたい。

V 関連資料

○ 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号） 抜粋

（事務の委任等）

第 25 条 教育委員会は、教育委員会規則で定めるところにより、その権限に属する事務の一部を教育長に委任し、又は教育長をして臨時に代理させることができる。

2 前項の規定にかかわらず、次に掲げる事務は、教育長に委任することができない。

- (1) 教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針関すること。
- (2) 教育委員会規則その他教育委員会の定める規定の制定又は改廃に関すること。
- (3) 教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の設置及び廃止に関すること。
- (4) 教育委員会及び教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の職員の任免その他の人事に関すること。
- (5) 次条の規定による点検及び評価に関すること。
- (6) 第 27 条及び第 29 条に規定する意見の申出に関すること。

3 教育長は、教育委員会規則に定めるところにより、第 1 項の規定により委任された事務又は臨時に代理した事務の管理及び執行の状況を教育委員会に報告しなければならない。

4 教育長は、第 1 項の規定により委任された事務その他その権限に属する事務の一部を事務局の職員もしくは教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の職員（以下この項及び次条第 1 項において「事務局職員等」という。）に委任し、又は事務局職員等をして臨時に代理させることができる。

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第 26 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第 4 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

（平成 27 年 4 月 1 日改正法施行）

下市町教育委員会点検・評価実施要領

(目的)

第1 町教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況を点検・評価し、効果的な教育行政の推進及び改善・充実に資することを目的とする。

(点検・評価の対象)

第2 次に掲げる項目について、点検・評価を実施する年度の実績に基づき、当該年度内に点検評価を行う。

- (1) 町教育委員会の活動状況
- (2) 「教育大綱」(町教育振興基本計画と一体的に作成)で示された取組項目
- (3) 町教育委員会が定める時の課題項目

(推進体制)

第3 点検・評価の円滑な実施を図るため、教育長、教育次長、主幹により内部評価委員会を設置する。

(点検・評価の手法)

第4 点検・評価は、以下のとおり対象に応じた手法により行う。

- (1) 町教育委員会の活動状況については、教育委員会議の開催状況や審議事項を総括し点検する。
- (2) 「教育大綱」(町教育振興基本計画と一体的に作成)で示された取組項目について、各部所(学校・園・事務局)で総括し、現状分析を行うとともに課題を整理し、次年度取り組む施策の方向性を明らかにする。
- (3) 時の課題項目については、必要に応じ点検・評価の項目を設定し分析する。

(第三者からの意見聴取)

第5 教育長は、点検・評価の客観性・公平性を高めるため、学識経験者に「教育評価支援委員」を1名以上任命し、点検・評価の方法や結果についての意見を聴取する。委員は無報酬とし、任期は原則として1年とする。ただし、再任は妨げない。

(点検・評価の報告)

第6 点検・評価報告書(「下市町教育」の検証)を作成し、町議会に提出する。

(点検・評価の公表)

第7 点検・評価報告書を町議会へ提出した後、町教育委員会のホームページに掲載する。

(その他)

第8 この要領に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

附 則

この要領は、令和3年12月17日から施行する。